

令和5年度大学入学共通テストの追試験と解答

地理A

第5問 香川県高松市の高校に通うセイラさんたちは、高知県須崎市周辺の地域調査を行った。この地域調査に関する次の問い(問1～6)に答えよ。(配点 20)

問1 次の写真1のニホンカワウソをモチーフにしたキャラクターに興味をもったセイラさんたちは、須崎市の位置する高知県の特徴を考えるために、高知県と香川県から東京都、愛知県、大阪府、福岡県への公共交通機関別の旅客数を調べ、図1を作成した。図1中の凡例ア～ウは、航空、鉄道、バスのいずれかである。公共交通機関名とア～ウとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

25

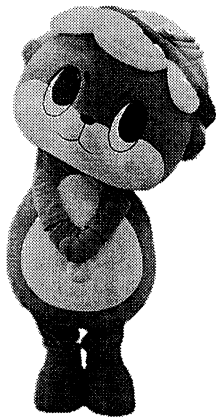
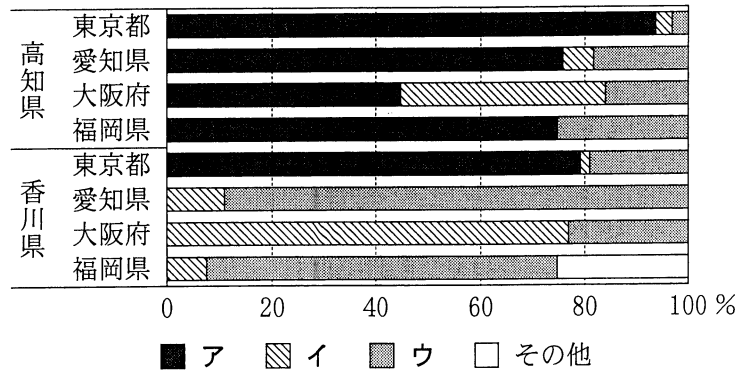


写真 1



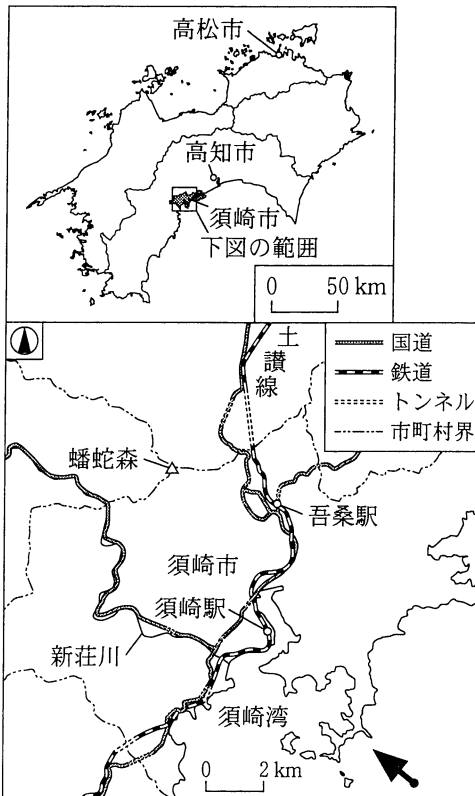
統計年次は2019年。国土交通省の資料により作成。

図 1

	①	②	③	④	⑤	⑥
航空	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
鉄道	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
バス	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

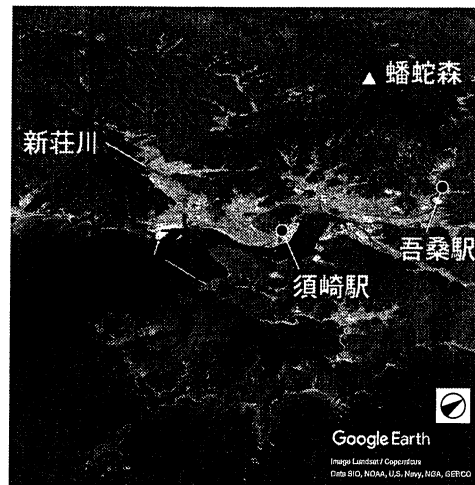
問 2 ニホンカワウソが新^{しんじょう} 荘川沿いにかつて生息していたことに関心をもったセイラさんたちは、次の図 2 と図 3 を作成した。図 3 は、図 2 中の矢印の方向の景観を立体的に示したものである。図 2 と図 3 に関することがらについて述べた文として適当でないものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

26



地理院地図により作成。

図 2



Google Earth により作成。

図 3


- ① 須崎湾から北西に伸びる国道は、大部分が新荘川につくった谷を通る。
- ② 須崎湾周辺では、沈水地形がみられる。
- ③ 土讃線の吾桑駅は、砂州上に位置している。
- ④ 蟠蛇森から吾桑駅にかけての斜面は、新荘川の流域には含まれない。

地理 A

問 3 ニホンカワウソが絶滅種に認定されていることを知ったセイラさんたちは、絶滅の主な要因を次の資料 1 にまとめ、人間活動の影響について調べることにした。まずセイラさんたちは、資料 1 に示した「市街地の拡大」に着目した。後の文章は、図 4 で示した須崎市中心部の 1936 年と 2017 年に発行された 2 万 5 千分の 1 地形図(原寸、一部改変)に関することがらを、セイラさんたちがまとめたものである。図 4 に関することがらについて述べた文章中の下線部①～④のうちから、最も適当なものを一つ選べ。

27

資料 1

ニホンカワウソとは？ 

- ・生態系の上位捕食者
- ・かつて日本各地の山・川・海に生息

絶滅までの経緯

- ・明治期以降 乱獲，密猟
- ・1928年 捕獲禁止令
- ・1979年 新荘川で最後の目撃
- ・2012年 絶滅種に認定

絶滅にかかわる要因

- ◆人間活動の影響
 - ・「市街地の拡大」
 - ・「農業の近代化」
 - ・「自然災害への対策」
 - ⋮
- ◆自然の影響

佐藤・加藤(2013)などにより作成。

1936年から2017年の間に、須崎市中心部では大きく土地利用が変化した。この間に沿岸部では、①富士ヶ浜が埋め立てられ、その埋立地上に鉄道が延伸された。須崎港の沿岸は埋め立てられたほか、湾奥部には、②斜面に盛土してセメント工場が建てられた。内陸部では、市街地が須崎駅の西側に拡大し、③池ノ内の水田地帯では、ため池が完全に埋め立てられ、道路がつくられた。④池山の北側には、いくつかの公共施設が建てられ、新たな住宅地が広がった。

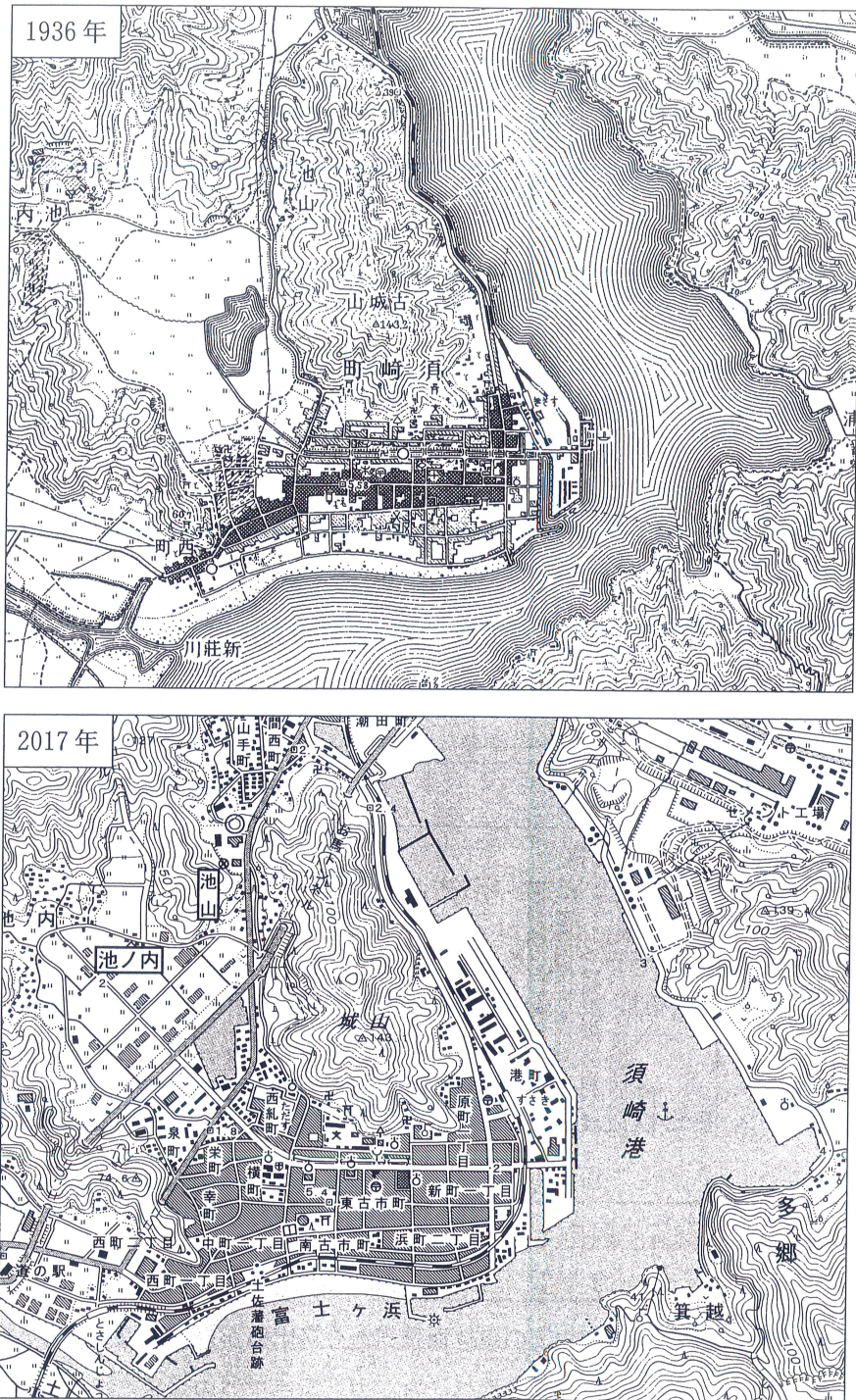
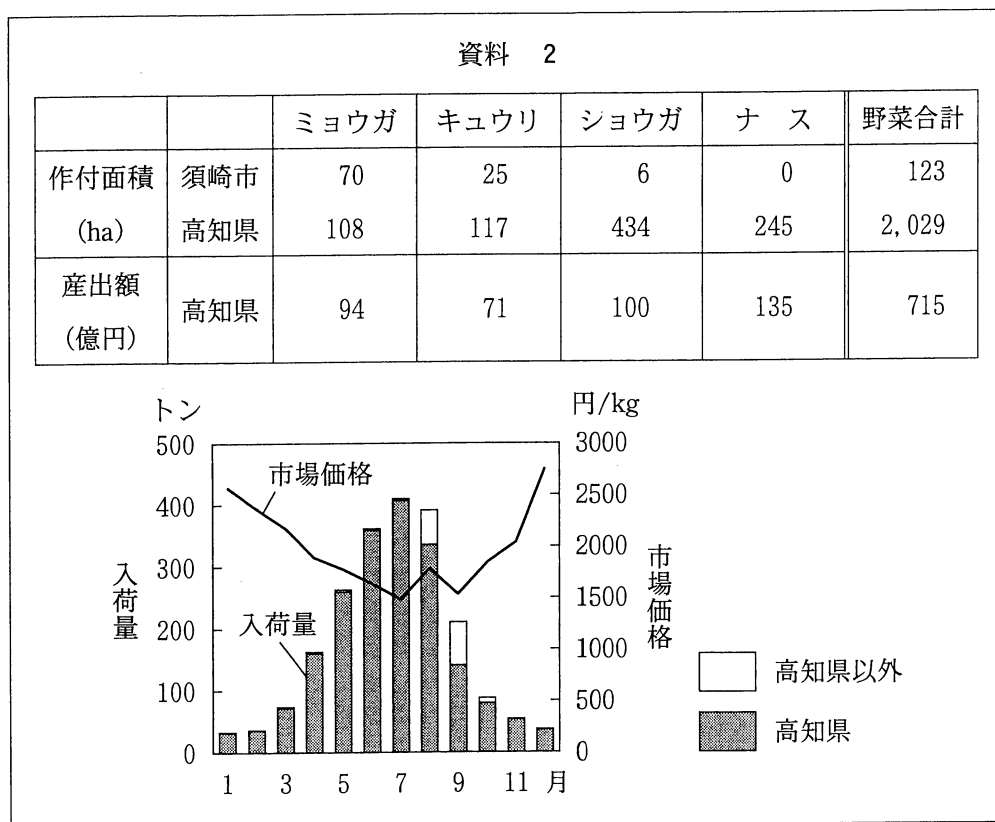


図 4

地理 A

問 4 次にセイラさんたちは、資料 1 に示した「農業の近代化」に注目し、須崎市と高知県の農業の現状について調べ、次の資料 2 にまとめた。資料 2 中の表は、須崎市と高知県における主な野菜の品目別作付面積と産出額を示したものである。また、資料 2 中の図は、東京都中央卸売市場におけるミョウガの生産地別入荷量と市場価格の月ごとの変化を示したものである。資料 2 に関することがらについて述べた文として **適当でないもの** を、後の①～④のうちから一つ選べ。

28



統計年次は 2019 年。農林水産省の資料などにより作成。

- ① 高知県では、ミョウガの単位面積当たり産出額が、キュウリよりも高い。
- ② 須崎市は、高知県全体に比べミョウガとショウガの生産に特化している。
- ③ ミョウガの市場価格は、入荷量の少ない時期に高くなる傾向がある。
- ④ ミョウガの生産地別入荷量は、1年を通して高知県産が過半数を占める。

問 5 セイラさんたちは、資料 1 に示した「自然災害への対策」について、須崎市周辺でみられる津波への対策事例の写真とその目的を次の資料 3 にまとめた。津波への対策の目的として下線部に誤りを含むものを、資料 3 中の下線部①～④のうちから一つ選べ。

29

資料 3

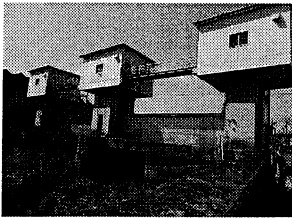


写真 河川の河口部にある水門

目的 ① 津波の際に、河川の周辺住民が一時的に避難すること

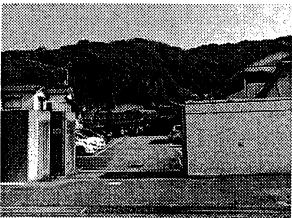


写真 集落の海沿いにある堤防

目的 ② 津波の際に、ゲートを閉め、堤防より陸地側の建物の被害を軽減すること



写真 集落内の津波に関する石碑

目的 ③ 津波が石碑の地点まで到達したことを後世に伝えること

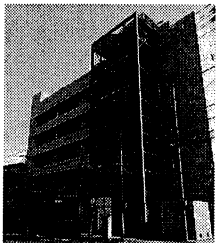
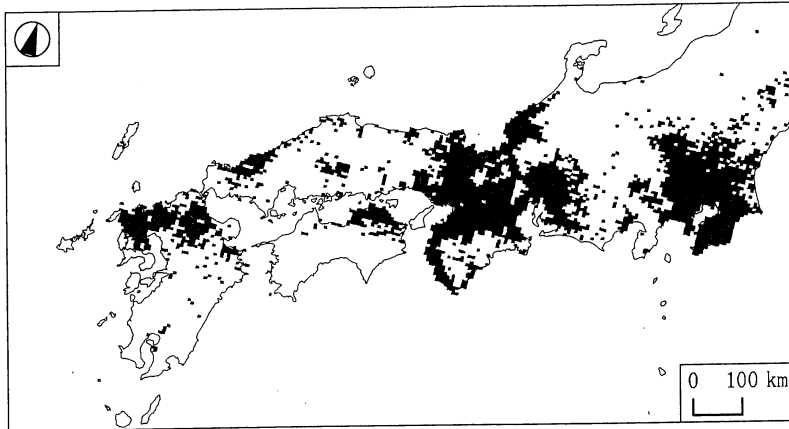


写真 市街地内のビルの外壁に付けられた、幅が広く傾斜がゆるい階段

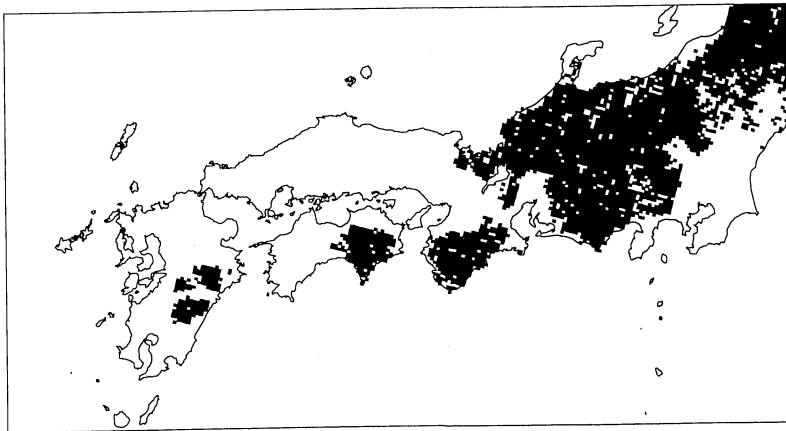
目的 ④ 津波の際に、高台まで避難できない周辺住民が緊急に避難すること

地理 A

問 6 セイラさんたちは、調査のまとめとして、次の図 5 を見ながら生物多様性について話し合った。図 5 は、日本の在来種のカモシカと外来種のアライグマの生息分布を 5 km メッシュで示したものであり、図 5 中のカとキは、カモシカとアライグマのいずれかである。また、後の会話文中の空欄 a にはカとキのいずれか、下線部 b に関する取組みの具体例には後の X と Y のいずれかが当てはまる。空欄 a に当てはまる分布図と、下線部 b に関する取組みの具体例との組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 30



カ



キ

統計年次は、アライグマが 2017 年、カモシカが 2018 年。
環境省の資料により作成。

図 5

セイラ 「ニホンカワウソの絶滅には、乱獲や人間活動の拡大が大きく影響していたね。生物多様性の減少には、ほかにどのような理由があるかな」

ショウ 「人間がペットとして持ち込んだ外来種が在来種の生息をおびやかして、生物多様性に影響を与えていそうだね。図 5 のカモシカとアライグマの生息分布図を比較すると、(a)がアライグマだと判断できるね」

サ ナ 「ほかには、b 人間の自然への働きかけによって長らく保たれてきた生物多様性についても、働きかけを続けていくことが課題となっているよ」

セイラ 「生物多様性を考えるには、自然と人間との関係についてもっと深く学んでいく必要があるね」

下線部 b に関する取組みの具体例

X 石灰石の採掘のために斜面が削り取られた日本の山において、植生を回復させるための植林ボランティアに参加する。

Y 野焼きによって維持されてきた日本の草原において、担い手が少なくなった野焼き作業のボランティアに参加する。

	①	②	③	④
a	カ	カ	キ	キ
b	X	Y	X	Y

【第5問の正解】

設問	解答番号	正解
1	25	2
2	26	3
3	27	4
4	28	2
5	29	1
6	30	2